

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	新設時、職員全員で理念作りを決定した。その理念はいつでも見える所に掲げ、朝礼時に唱和している。何かを考える時は理念に基づき考えている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングルームに基本理念を「書」で書いて掲げ、事務所の中にも掲げいて、常に初心を忘れないように心がけている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	リビングルームに基本理念を「書」で書いて掲げていて、家族の方等に解りやすくしています。運営推進会議には必ず理念を記載し、浸透に努めている。楽々だよりと作成し、家族の方などに配布している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に隣近所の方と親しくするのは難しいが、散歩や盆踊り大会等を利用して挨拶するなど心がけている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する特養や自治会と協力し、盆踊り大会やソーメン流し等のイベントに参加したり、市が行うお月見会等のイベントがあると解ると参加するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で、認知症の方の事例など話しをしながら理解を求めている。その後ホームページに記載して、どなたでも見れるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が理解し、改善すべきところは全員で話し合い取り組みが出来るように努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初年度はグループホームの生活を中心に取り組んできましたが、今年度は認知症の方の行動やその時の思いなど、認知症について理解して頂けるように努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、話し合いの場は設けているが、それ以外の行き来は殆んど無い。市町村からの見学や、ボランティアの受け入れる体制は取ってある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護に関する研修の機会は今のところない。現在成年後見人制度の利用の必要性があると思われる利用者が居られるので、関係者と話し合いをする事があるが、まだ利用するまではいっていない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングなどで話し合いを持ち、身体の拘束はもちろん、言葉の拘束、薬の拘束も行っていない事を職員全員に認識してもらい実践している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ前には、施設見学に必ずきて頂き(本人も出来るだけ)説明し、契約する際にも充分時間をかけて説明し、同意を得ている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の不満、意見などは可能な限り改善するよう努めている。苦情等受け入れる事の説明も行い、文書として掲示している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日常生活などの掲載した新聞や日誌など家族にお渡ししている他、家族来荘のの時に伝えている。金銭管理についてはこずかい帳の写しなど渡し、どのように使われているのか理解を頂いています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来荘時に聞いたり、アンケート調査(匿名)で意見を書いたり、認定調査後のケアプランの変更時などで家族の意見を聞くように努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々職員の意見等を聞くようにしている他、全体ミーティングを2ヶ月に1回開催して全員の意見が出せるよう機会を設けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その時の状況に応じて、職員の勤務時間など調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来、職員の移動はありません。家庭の事情で一人退職されましたが、すぐに認知症に対する理解が深い方を採用しています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が順番に施設外研修を受講し、それを伝達講習より職員全員が理解できるように取り組んでいる他、他部署の研修(応急救護:消防署)などにも積極的に参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者などの見学訪問などは受け入れ、話しを持つ場は設けているが、活動は出来ていない。他部署(特養やデイサービス)との交流は行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々のコミュニケーションにより悩みの聴取的な事を行ったり、全体ミーティングや関連組織の方との納涼会、忘年会などで職員相互の親睦を図る為の集いも行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の希望等も取り入れながらの勤務表を組む努力をし、知識・技術向上の為資格を取るなどに考慮している。職員全員で協力し取り組んでいる。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくりと時間を掛けて、本人が安心して暮らせるように話しを聞いていく。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時や、入所前にホームの見学に来ていただくなど実際に見て頂きながら、色々な事を聞き易い環境を整えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される本人はもとより家族に今現在必要な事や、これから必要となるかもしれない状況等想像し、情報を家族に伝え十分に考える時間を持ってもらえるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	実際問題、1ユニット9名で満床の状態でいきなりサービスを開始しない等は困難である。出来る限り入所前や事前面接前に本人の見学をお勧めする等、本人・家族と一緒に相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護するという一方的な活動で無く、本人の持っている力を引き出すように行っている。一緒に生活をするなかでの入所者から学ぶ事は多く、家族の様な生活を送れるよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などを利用し、家族とのコミュニケーションをとっている。楽々だよりや日々の生活を記録した日誌等毎月お渡しし、どのような生活、活動、健康状態なのかを知って頂く様に努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が入所されて落ち着いた生活を送られている事で、家族も安心した気持ちをもたれると思う。一緒に過ごして頂ける環境・時間をつくる様に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族の希望を聞き、出来る限り外出や外泊、来荘などは出来るよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症のレベルや健康状態、本人が求めている事など把握し、静かに過ごせる様にしたり、一緒に行動するなど状況になる様に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	オープン以来契約終了者は一名だが、その理由は入院により、先生がグループホームでの生活は無理だと判断した事でした。その後隣接するデイサービスを利用されたりした時、遊びに来られたりとコミュニケーションをとっていました。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ること出来ない事はあるが、本人や家族からこれまでの生活歴などを聞き参考にし、職員間でも相談して利用者の立場に立って考えている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中から把握したり、家族、ケアマネージャー等から情報を収集するよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の観察を個人日誌に記録し、申し送り等も含め職員全員で把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で本人の思いや、状況などを把握すると共に、家族来荘時に思いなどを汲み取り、2ヶ月毎に行う全体ミーティングで職員の意見交換をしながら行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状態把握に努め行動、協力して頂いている医者、看護師、薬剤師の意見なども聞きながら、状況変化に対応していくように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人の状況暮らしの内容を記入し、検温表、食事量、水分補給量など記録に残す個人日誌と、一日毎の記録を記入する日報を併用している。それらを職員が日々確認し把握できるように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	色々な支援をする中で、利用者の思い、家族の希望など柔軟に対応している。「家での生活」を考えの元に日々の生活を行っているので、時間の枠にとらわれる事無く柔軟に対応していけるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアでの囲碁の先生、三味線慰問等などの協力や、消防署の方の研修、市の行事の参加するなど色々な事が実現できている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームを利用しながらの他の介護保険サービスは利用できない。ただ併設している特養で行われる行事や、慰問などには参加させて頂いている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ行ってないが、2ヶ月毎に行っている運営推進会議のメンバーに参加して頂き、情報交換に努めている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、家族に説明し納得してもらった上で、協力かかりつけ医、訪問看護ステーションの月二回の往診や、体調変化の時の支持を受けるなどして、適切な医療を受けられるように支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>現在協力して頂いている医師、看護師は他の施設などの支援もされており、専門医ではないが相談援助して頂いている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>訪問看護ステーションと協力し、月2回医師往診時の帯同や、24時間体制の受け入れ対応して頂き、利用者の支援をしようとしている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時に、利用者の生活状況等の情報提供し、病院の先生や担当看護師と状況等の情報を得ようとしている。家族との連絡も密に取り、早期退院に向けての意見交換を行っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事前面接時、契約時に終末期のあり方についての説明は行っている。しかし、元気な状態で説明してもイメージがわからないのが現状である。生活していく中でのレベル低下が見られるとき、再度説明、話し合いをしている。</p>		<p>入所時介護1だった方が、現在要介護5になっている。家族の希望日より終末期はここでと言われ、入浴などは二人対応で行い、健康面においても医師、看護師と連携し取り組んでいる。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>職員間では日々利用者の状況・今後について変化が生じた時に話し合っている。月二回の往診時にはその時の健康状態だけでなく、今後どのように支援していけばよいなど話し合っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>オープン以来二名の方の退所があったが、二人とも入院により医師より荘での生活は無理だという判断の元によるものであった。家族や関係者と話し合い、本人にとっていい状態になるように努めている。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>理念に掲げている内容を、職員全員が理解し行動している。職員同士も注意し合える状況が見受けられる。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>共同生活を前提において話をするが、出来るだけ本人の希望や思いが言える状況、解り易い説明をして納得して頂ける事、自分で決めれる事を大切に考え行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>共同生活でのある程度のルールはあるが、その日の個々の健康状態を考慮しつつ、本人の希望に副えるように心がけている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>家族の協力の元で、今まで利用していた美容院に行けたり、施設に来る美容院を利用したりしている。白髪染め等は利用者と一緒に毛染め液を購入に行き、好きな色を選んで頂き、職員が対応して行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お年寄りの好み等は個別で対応し、食品の買物から食事の準備、後片付けも一緒に行っている。嚥下の悪い方には細かく刻んだりして対応している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>コーヒーが好きな人、紅茶が好きな人等個別に対応し、タバコやお酒等も本人の体調を考慮しながら、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々人の排泄パターンを把握し、声掛けし誘導をするよう行っている。外出する前にはトイレの声掛けを行う事などによって、外での不安を取り除くようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回と一応決めてはいるが、日中活動して汗をかいた人、本人が入りたいと訴えた時など臨機応変に対応して、週に3回以上入浴されているのが現状である。入浴は夕方行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後、個々人のペースで過ごされ就寝されている。入所時眠剤利用されていた方も、寝る前にゆったりとした気持ちで過ごされる事によって飲まなくてもよくなってきた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々人の性格や習慣などを見極めてたり、家族に生活歴などの情報収集をし、その人らしい生活を送れるように努めている。ソーマン流しやフェリーに乗りに行く等気晴らしができる様にしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に家族に説明し、本人にお金を持っていただいている。買物時に自分で希望もものを購入される場合もある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々人の体調を見極めながら、日々買物、散歩や草取り、畑仕事など出掛けられる様に支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力の元に墓参りや外泊、個人の欲しい物がある場合個別に対応など行っている。最近では行っていなかった選挙も行ったりしました。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の取次ぎは行っている。個人で電話が掛けられる人はいないが、希望に応じて(時間帯は考慮し)職員が代わりにかけてあげる事など対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	一応面会時間は決めてあるが、いつでも来て頂けるように心がけている。来荘時にはお部屋でも、リビングルームでも一緒にお茶やお菓子など食べてお話しして頂き、時には利用者皆で話をされたりしている。家族以外の知り合いも良く訪ねて来てくれている。宿泊されて帰る家族も居られました。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の拘束はもちろん、言葉の拘束、薬の拘束も行ってはいけない事を職員全員に認識してもらい実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中出入りは自由で鍵は掛けていません。外に出たりした時は、その都度一緒に行き見守ります。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員全員が意識して常に行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在では注意の必要な物は職員の目の行き届く所に管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	普段からの職員間の声掛けなどをし、事故が起こった時再発防止の話し合いなど常に行っている。		マニュアル作成(現在飲んでいる薬などの内容など把握できるような物も作っている)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急救護の研修など、機会がある毎に職員が参加している。急変時のマニュアルも作成しており、訪問看護ステーションとの24時間対応での連携もしている。		マニュアル作成
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練によって、避難の難しさが浮き彫りに出てきた。併設している特養、デイサービスなどと連携した訓練を日頃から行っていきたい。総合施設として設立されている為、地域の人々の協力ということについては、立地条件的にも困難であると思われる。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族が来荘されるたびに、現状報告(他のお年寄りも含め)して、今後の生活や対応について話しをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の引継ぎや、連絡ノート、日誌などを活用し、変化に気付いた場合、医師、訪問看護の方に連絡し指示を頂いている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が提出している「お薬説明書」やインターネットからその他資料を取り出しファイルにし、職員全員で理解している。変化についてはその都度確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事量、食事の内容、運動量(生活の中での)を考慮して働きかけている。便器気味の方には特に便表を活用し、牛乳、ヨーグルト類、便秘薬などを使用する様にしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事後の声掛けや誘導により介助を行っている。夜間には義歯の方は外して頂き、ポリデントで消毒している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分補給量を記録して職員全員が確認できるようにしている。外出、入浴後の水分補給はもちろん、夜間の水分補給も対応し、脱水状態に陥らないように心がけている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを活用したり、インフルエンザの予防接種を家族の確認の元毎年行っている。外出後の手洗い、うがいを徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	グループホームの特徴である買物を毎日する事によって、余分な食材を購入する事無く、毎日新鮮な食材を使用している。調理器具も最後には食洗器にかけ乾燥させている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は普通の家庭の玄関で、表札も「筆」で書かれた物を掲げている。玄関周りも普通な家庭的な雰囲気を出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間はすべて家庭的な雰囲気を作っています。台所も対面式オール電化と最新式の物も取り入れています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームでは3人掛けのソファが4つ有ったり、ダイニングテーブルは2つ有ったり、雑誌・新聞・ビデオなども置き自由に過ごせるようにしています。ボランティアで年に何回か絵画も掛け変えて下さいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具はもちろん、仏壇なども持って来られ、今まで過ごされてきた生活習慣も大切にしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日掃除をして換気をしている。日中、夜間共に外気との温度調節を図っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベランダの出入りの段差は、滑り止めアルミ製の板など設け、浴槽内には滑り止め、手すり等を付けている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の状況を把握し、自尊心を傷つけないよう声掛けをしながら対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは2ヶ所あり、ベンチを置き日向ぼっこや花壇を作り、水遣りなどしたり、物干し竿を設けています。朝自発的に水やりなど行って行く様にもなっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム楽々八景山

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)